

第3学年 特別活動 学習指導案

- 1 日 時 令和6年12月11日（水） 第5校時
- 2 場所・学級 丹波市立青垣中学校 3年2組教室 3年2組 計20名
- 3 主題名 議題 「今の自分たちをふり返り、どうすればネットがうまく使えるか考えよう」
- 4 人権教育の内容 (1) 学級や学校の生活づくり（ア）（ウ）
(2) 適応と成長及び健康安全（ウ）
- 5 ねらい 池袋暴走事件に関する誹謗中傷事件のニュース動画を見て、被害者の気持ちを考え、怒りの感情をもたせたい。そして、自らの学校生活をふり返り、一歩間違えれば書類送検された中学生と同じことになりうるということに気付かせ、解決策を考えさせたい。

資 料 交通事故で妻と子どもを亡くした被害者の男性に脅迫メールを送った中学生が、書類送検された事件のニュース動画
- 6 主題設定の理由

【生徒観】

本学年は、素直で明るい生徒が多く、穏やかな雰囲気です。授業に取り組むことができている。また、人のことを思いやることもできる生徒が多い一方で、依然 SNS のトラブルも起こっている。本校には、生徒会で作成した9つの項目からなる「青中ネット憲章」があり、毎年 SNS の使用のルールを確認している。にもかかわらず、1年前に SNS による大きなトラブルが起こり、3年生にとっては自分たちの身近で深刻な問題だという自覚がある。ただ、この問題について授業の中で考え、学習したことが普段の生活の中に生かされていないため、SNS の使用時や学校生活の中でも「人の気持ちを考えた発言・行動」でないと思われることが、3年生になっても見られることがある。

【教材観】

本教材は、中学生が SNS にまつわる事件を起こし、書類送検された事実を取り扱う。生徒と同じ年齢の中学生が書類送検されるほどの事件を起こしていることを知ることで、より自分に置き換えてこの事件を捉えられと考える。また、本校の「青中ネット憲章」と比較することで、この中学生が「青中ネット憲章」の項目のうち何が足りていないかも考えることができ、その守れていないことと自分の守れていないことを対比させることができ、より自分事として考えることができる。

【指導観】

本時の導入として、まず事件の概要を説明する。その際に、この中学生の行動に怒りの気持ちをもたせたい。そして、その行動は自分たちがこれまでやってしまった行動と一致する部分があり、一歩間違えれば犯罪にもつながるような問題に発展することに気付かせたい。次に、まとめの部分で、このような誤った行動を起こさないようにするためにはどうすればよいのかを考えさせる。解決策を考えさせるうえで、以前見た同和教育のビデオにあった「人は弱いから人を傷つける」という言葉を想起させる。また、日頃行っている『いいところ見つけ』で他者を認め合ったり、毎日書く生活ノートで困ったことがあれば相談したりすることなど、日頃の行動の大切さにも気付かせたい。さらに、この授業を通して学んだことを活かし、生徒会を中心に「青中ネット憲章」をより良いものに改善する活動へとつなげていく。単に文言を変えるだけでなく、一人でも多くの生徒が正しいネットの使い方ができるように、「青中ネット憲章」の伝え方や、その意味や価値まで全校生にしっかり考えさせる機会とし、これからの青垣中学校に残していきたい。

7 本時の展開（第1時／全1時間）

（1）目標

実際に起きた事件と自分たちの普段の行動が異なるものではないということに気付かせ、そのような行動をしないために何が大切か考えさせる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点
1 池袋暴走事故の概要を共通理解させる。 ・ニュースの映像や当事者のインタビュー映像を見る。 ・ニュースの内容を見た意見をペアトークする。 ・書類送検された中学生は、青中ネット憲章のどの項目が守れてなかったかを考える。	○ 被害者の置かれている立場を理解し、この事件に対しての怒りをもたせたい。そのために、もし同じことが起きて自分の大切な人に何かあったらどうするか問いかけて想像させる。
2 普段の生活をふり返り、守れていない行動をグループで出し合う。 【予想される生徒の反応】 ・メッセージのテンポを優先して送信前に内容を確認せずに、思ったことをすぐに送信した。 ・相手を傷つけるような発言をした。 ・SNS のうわさを事実と捉えてトラブルが起きた。 ・当事者が嫌がらないからその場の雰囲気、発言してしまった。 ・夜遅くまでスマホを使っている。 ・SNS などの文字だけで判断し、相手の感情が正しく理解できなかった。	○ 正直に言うのは大切だが、導入の事件を知ったうえで軽い発言をしてはいけないことを指導する。 ○ 一歩間違えれば導入の中学生のように、人の心を傷つけ、犯罪につながる行動をしていることに気付かせる。
人はなぜしてはいけないとわかっているのにしてしまうのか、はっきりさせよう。	
3 守れていない行動をなぜしてしまったかを考え、グループで出し合う。 ・2の活動で出し合った自分の行動について、してはいけないことと理解しているのにしてしまったときの気持ちを包み隠さず話す。 【予想される生徒の反応】 ・自分が弱いから相手を下に見ると安心するから。 ・学校では声をかけてくれる友だちがいるが、SNS を使う家では自分ひとりなので、注意してくれる人がいないから。 ・授業で学んだことを普段の生活に生かすことができていないから。	○ ただ反省をするのではなく、原因が何かをはっきりさせる。 ○ しかし、その理由を出すのには時間がかかると予想されるので、教師側はじっくりと待つ姿勢をもっておく。 ○ そのような行動をした自分を想起させて考えさせる。 ○ 同和教育のビデオで見た、「人は弱いから人を傷つける」という言葉を思い出させたい。
4 本時のまとめ ・これまでに悪いと分かっている、やってしまったことに対する解決策をワークシートに記入する。 ・本時の感想をワークシートに記入する。	○ やってはいけないことをやってしまった過去の自分と、やっていない現在の自分では何が違うのかを考えさせる。 ○ SHR の『いいところ見つけ』や『タイムくん』など、普段行っている活動で防げることに気付かせたい。 ○ 「ノリで送っていたから、ノリで送らないようにする」というような安易な解決策でなくて、具体的な解決策を考えさせる。